

科目名 Course Name		開講年次	開講学期	曜日・時限
相談援助演習Ⅱ Seminar of Social Work Ⅱ		1年	後期	別途、時間割参照
単位数	授業の形態	授業の性格		履修上の制限
1単位	演習	選択	(社会福祉士国家試験受験資格取得 必修)	特になし
当該科目の理解を促すために受講しておくことが望まれる科目				
社会福祉士国家資格指定科目				
同時に履修しておくことが望まれる科目				
社会福祉士受験資格指定科目				
担当者に関する情報				
氏名	研究室の場所	オフィスアワー		電話番号・メールアドレス
吉田 志保	福祉棟	授業以外の時間		授業中に指示します
授業の概要				
社会福祉士に求められる相談援助に係る知識と技術について、実践的に習得するとともに専門的援助技術として概念化し理論化し体系立てていくことができる能力を涵養する。				
授業の目標				
①ソーシャルワークの価値に基づいて、実践で何を指すべきかを述べることができるようにする。 ②ソーシャルワークの基本的な視点と知識に基づいてクライアントの状況を多面的に理解し、他者がわかるように説明できるようにする。 ③面接技術およびソーシャルワークの流れを理解し、その説明および留意点を述べるができるようにする。 ④演習内容について客観的に自己評価ができ、それを実践に役立てることができるようにする。				
授業の方法				
演習を中心に授業を展開するが、必要に応じて講義を行う。 演習後には小レポートを作成し、ディスカッション等で振り返りを行う。 小テストにて知識定着の確認を行う。				
学習の成果（学習成果）				
①社会福祉士で科目別に学習する事柄の関連性に気付き、総合的・包括的に捉えることができる。 ②自分や社会への理解を深め、実践に応用するスキルを身につけることができる。				
授業のスケジュールと内容				
第1回目	ガイダンス/ 面接技法（面接ってなんだろう？）			
第2回目	面接技法（面接の基本を学ぶ）			
第3回目	記録技法（逐語記録、ケース記録）			
第4回目	アセスメントとプランニング（面接をとおしてのアセスメント演習）			
第5回目	アセスメントとプランニング（プランニングの実際）			
第6回目	アセスメントとプランニング（プランニングの実際）			

第7回目	ケースカンファレンス（ケースカンファレンスの方法、ケースカンファレンスの準備）	
第8回目	ケースカンファレンス（模擬ケースカンファレンス①）	
第9回目	ケースカンファレンス（模擬ケースカンファレンス②）	
第10回目	評価と効果測定（評価測定の実際－支援内容の評価）	
第11回目	評価と効果測定（評価測定の方法、利用者の満足度）	
第12回目	「事例研究」外部講師：社会福祉士 土屋佳子氏（所属：東京都教育庁 自立支援チーム統括スーパーバイザー）【課題 事例研究の感想レポート：提出14回目】	
第13回目	コミュニティワーク「ニーズ（課題）の明確化」	
第14回目	コミュニティワーク「広報誌の作成」	
第15回目	まとめ	
事前・事後学習	ITや図書館を活用して、授業で不明であった点は必ず次回授業までに調べておくこと。また、科目担当者や担任に質問に行くこと。常に分析をする視点を持つこと。	
成績評価の方法と基準		
評価の領域	割合	評価の基準
授業参加態度	30%	以下の点で評価します。授業の準備を整え、遅刻せずに出席していること。演習への積極的な参加。演習の目的を理解できていること。
レポート	40%	授業・演習テーマ、意図に即した振り返りシートで、学びを確認する。評価Sは、授業内容を踏まえ、自分自身の振り返り、自己覚知がなされていること。
調査報告書		
小テスト	30%	单元ごとに確認テストを行う。
試験		
発表内容（態度含む）		
その他		
教科書と参考図書		
「ソーシャルワーク演習ワークブック」相澤穰治・植戸貴子／みらい		
履修上の留意点・ルール		
私語、携帯電話の使用を禁止します。授業に関係のないもの（携帯電話、食べ物、飲み物、化粧品、手帳）はかばんにしまうこと。		